SONY

4-158-545-**02**(1)

IC レコーダー

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。

この取扱説明書をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

IC RECORDER

ICD-AX80

⚠警告 安全のために

事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

- **安全のための注意事項を守る**
- **故障したら使わない**
- **万一異常が起きたら、お買い上げ店またはソニーサービス窓口に修理を依頼する**

警告表示の意味

この取扱説明書では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠危険

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電・破裂などにより死亡や大けがなど人身事故が生じます。

⚠警告

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大けがなど人身事故の原因となります。

⚠注意

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号

火災

感電

行為を禁止する記号

禁止

分解禁止

ぬれ手禁止

接触禁止

下記の注意事項を守らないと火災・感電により死亡や大けがの原因となります。

運転中は使用しない

- 自動車、オートバイなどの運転をしながらイヤーレシーバーなどを使用したり、細かい操作をしたり、表示画面を見ることは絶対におやめください。交通事故の原因となります。
- また、歩きながら使用するときも、事故を防ぐため、周囲の交通や路面状況に充分ご注意ください。

内部に水や異物を落とさない

水や異物が入ると火災や感電の原因となります。万一、水や異物が入ったときは、すぐに電池を抜き、お買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。

湿気やほこり、油煙、湯気の多い場所や、直射日光のあたる場所には置かない

火災や感電の原因となることがあります。とくに風呂場では絶対に使用しないでください。

雷が鳴りだしたら、電源プラグに触れない

感電の原因となります。

目次

準備

基本の操作

その他の録音操作

その他の再生操作

編集する

メニューについて

パソコンを活用する

その他

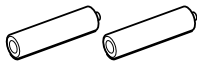
困ったときは

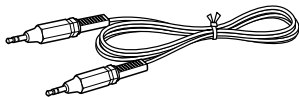
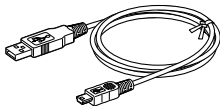
準備1：箱の中身を確認する

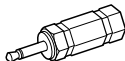
本体(1)

表示窓に貼られているフィルムを
剥がしてお使いください。

エレクトレットコンデンサー マイクロホン (単一指向性ダイレクトインマイク)(1)

ソニー単4形アルカリ乾電池(2)

ステレオイヤーレシーバー（1）

オーディオコード(ステレオ・抵抗入り)（1）

USBケーブル(1)

必ず付属のケーブルを使って、接続して
ください。

変換プラグ(ステレオーモノラル)(1)

パソコン用アプリケーションソフト
Digital Voice Editor (CD-ROM)(1)

ICレコーダーの基本ソフトウェアで、パソコンで録音データの保存や編集が可能です。

キャリングケース(1)

取扱説明書(1)

保証書(1)

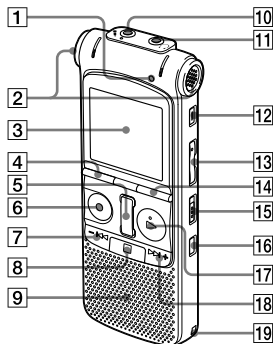
簡単ダビングガイド(1)

上手な録音ガイド(1)

ソニーご相談窓口のご案内(1)

この取扱説明書で説明している以外の変更や改造を行った場合、本機を使用できなくなることがありますので、ご注意ください。

各部のなまえ

本体(表面)

1 アクセスランプ

2 内蔵マイク(ステレオ)

3 表示窓

4 分割ボタン

5 DPC速/遅ボタン

6 ● 録音/一時停止ボタン(録音ランプ)

7 −⏮ (早戻し)ボタン

8 ■ (停止)ボタン

9 スピーカー

10 🎤 (マイク)ジャック*1

11 🎧 (ヘッドホン)ジャック*2

12 消去ボタン

13 音量+*1/−ボタン

14 表示/メニューボタン

15 DPC(速度調節)入/切スイッチ

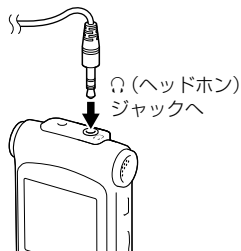
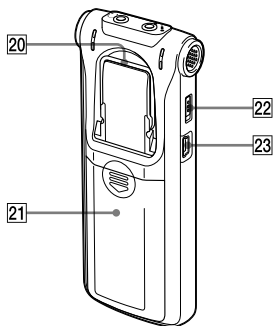
16 ↻ (リピート) A-Bボタン

17 ► 再生/停止・決定ボタン*1 (再生ランプ)

18 ⏭+(早送り)ボタン

19 ストラップ取り付け部
(ストラップは付属していません)

*1 凸点(突起)がついています。操作の目安、端子の識別としてお使いください。

*2 付属のステレオイヤーレシーバーを 🎧 (ヘッドホン)ジャックに差し込みます。雑音が入るときはイヤーレシーバーのプラグをきれいに拭いてください。

本体（裏面）

20 スタンド
テーブルなどに置いて録音する場合には本機を立てて使うことができます。

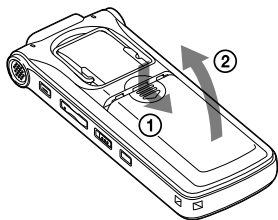
21 電池ぶた

22 ホールドスイッチ

23 •⟵(USB)端子

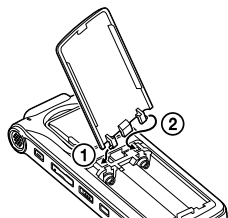
準備2：電池を入れる

表示窓に貼られているフィルムを剥がしてお使いください。

1 電池ぶたを矢印の方向へずらして開ける。

2 単4形アルカリ乾電池（付属）を2本入れ、ふたを閉める。

お買い上げのあと、初めて電池を入れたときや、電池を抜いたまま長時間お使いにならなかったあとに電池を入れたときには、時計設定画面が表示されます。「準備4：時計を合わせる」（13ページ）の手順に沿って時計を合わせてください。

ヒント

- 電池を交換する際、電池を取りはずしても録音した用件やアラーム設定は消えません。
- 電池を交換する際、電池を取りはずしても約2分間、時計は動いています。

電池ぶたは落としたり、無理な力を加えたりするとはずれることがあります。そのときは上の図のようにはめ直してください。

使用できる電池

使用できる電池は、以下の乾電池になります。

- 単4形アルカリ乾電池2本(付属)

ご注意

- 乾電池は電池のメーカーや種類によって性能のばらつきがあり、使用時間の目安に対して特に低温下では短くなる場合があります。
- 乾電池を交換するときは、必ず2本とも新しい乾電池に交換してください。
- 単4形アルカリ乾電池以外の乾電池をお使いになると故障の原因になります。

使用できない電池

- マンガン電池

使用できる充電池

使用できる充電池は、以下の充電池になります。

- 充電式ニッケル水素電池単4形(別売):NH-AAA-2BKA

ご注意

充電式ニッケル水素電池(NH-AAA-2BKA)以外の電池に充電すると故障の原因になります。

以下の方法でも本機を充電できます。

詳細については「パソコンにつないで充電する」(56ページ)または、「USB ACアダプター(別売)につないで使う」(58ページ)をご覧ください。

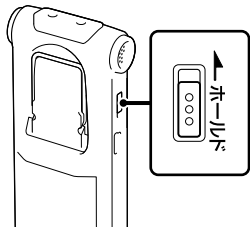
電池を交換する時期

電池の残量が少なくなってくると、表示窓の表示でお知らせします。

電池の残量表示

: 電池の交換時期が近づいています。

: 「LO BATT」が表示され、操作ができなくなります。

準備3：電源を入／切する

電池を入れると表示窓に表示が出て電源が入ったことがわかります。
本機をお使いにならないときは、電源を切ることで電池の消耗を抑えることができます。

電源を切るには

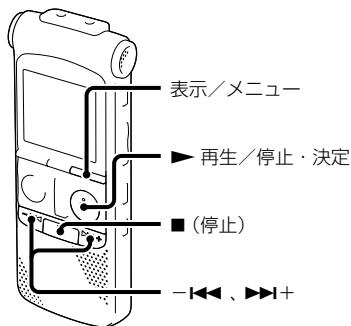
停止中にホールドスイッチを矢印の方向にずらすと、しばらくたってから電源が切れます。

電源を入れるには

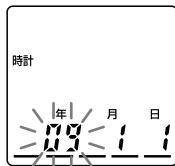
ホールドスイッチを矢印と逆の方向にずらすと電源が入ります。

ヒント

- 長時間ご使用にならない場合は、電源を切っておくことをおすすめします。
- 電源を入れて停止状態のまま10分経過すると自動的に表示が消えます。（ボタンを押せば、操作できます。）

準備4：時計を合わせる

アラーム機能を使用したり、録音した日時を記録するためには、本機の時計を合わせておく必要があります。
お買い上げのあと、初めて電池を入れたときや、電池を抜いたまま約2分以上お使いにならなかったあとに電池を入れたときは、年表示が点滅します。

電池を入れてすぐに時計を合わせる

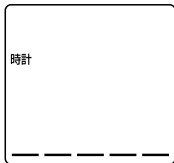
1 年月日と時分を合わせる。
－⏮ または ⏭＋ボタンを押して、年、月、日、時、分の順で数字を選び、► 再生／停止・決定ボタンを押す。

2 停止画面に戻すには ■（停止）ボタンを押す。

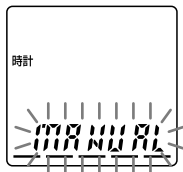
メニューを使って時計を合わせる

停止中にメニューを使って時計を合わせることができます。

1 メニュー画面で「時計」を選ぶ。

①表示／メニューボタンを長押ししてメニューモードに入る。
メニュー画面が表示されます。

②－⏮ または ⏭＋ボタンを押して、「時計」を表示させる。

③► 再生／停止・決定ボタンを押す。

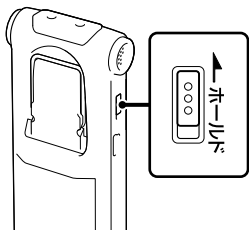
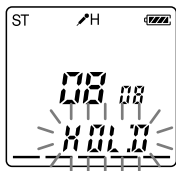
④－⏮ または ⏭＋ボタンを押して「MANUAL」を選び、► 再生／停止・決定ボタンを押す。
「年」の数字が点滅します。

2 年月日と時分を合わせる。
－⏮ または ⏭＋ボタンを押して、年、月、日、時、分の順で数字を選び、► 再生／停止・決定ボタンを押す。

3 停止画面に戻すには ■（停止）ボタンを押す。

ご注意

- それぞれの手順の間を約1分以上あけると、時計合わせがキャンセルされ、通常の表示に戻ります。
- Digital Voice Editorを起動したパソコンの日時を自動的に本機に取り込む場合は、手順④で「AUTO」を選んでからDigital Voice Editorを起動したパソコンと接続してください。

ホールドについて

誤操作を防止する（ホールド）

ホールドスイッチを矢印の方向にずらします。
「HOLD」が約3秒間表示され、すべてのボタンが操作できなくなります。

ホールドを解除するには

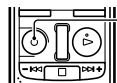
操作できるようにするには、ホールドスイッチを矢印と反対の方向にずらします。

ご注意
録音中にホールドにした場合、すべてのボタン操作ができなくなり、誤操作を防止します。録音を止めるには、まずホールドを解除してください。

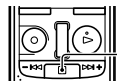
ホールド中でもアラーム再生は止められます。
アラーム再生時、どのボタンを押してもアラーム音や用件再生を止めることができます。（通常の用件再生は停止できません。）

録る

録音を始める

1 停止中に ● 録音／一時停止ボタンを押す。
録音ランプが赤く点灯します。
● 録音／一時停止ボタンは、録音中ずっと押し続ける必要はありません。
新しい用件は自動的に一番最後に録音されます。

2 内蔵マイクを録音する音の方向へ向ける。

録音を止める

1 ■（停止）ボタンを押す。
今録音した用件のはじめで停止します。

アクセス中のご注意

画面上に「ACCESS」の表示が点滅中、またはアクセスランプがオレンジに点滅している間はメモリーへ録音データを記録しています。アクセス中は、電池をはずしたり、USB ACアダプター（別売）を抜き差ししないでください。データが破損するおそれがあります。

ご注意

- 録音中、本機に手などが当たったり、こすったりすると雑音が録音されてしまうことがあります。ご注意ください。
- 録音を始める前に必ず電池残量表示（11ページ）を確認してください。

その他の操作

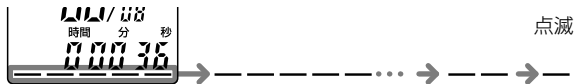
録音を一時停止する*	● 録音／一時停止ボタンを押す。 録音一時停止中は録音ランプが赤く点滅し、「PAUSE」表示が点滅します。
録音一時停止を解除する	もう一度 ● 録音／一時停止ボタンを押す。 先ほど録音していた用件に続けて録音することができます。（録音一時停止後、録音を続けず、停止するときは、■（停止）ボタンを押します。）
今録音したばかりの用件を聞く	► 再生／停止・決定ボタンを押す。 録音が解除され、今録音した用件のはじめから聞くことができます。
早戻し（レビュー）再生する	録音中または録音一時停止中に－◀◀を長押しする。 録音が解除され、今録音したところが早戻し（レビュー）再生されます。－◀◀を離すと、離したところから再生が始まります。

* 録音を一時停止して約1時間たつと、録音一時停止は解除され、録音停止になります。

ヒント

- 本機で録音される用件はMP3ファイルで録音されます。
- フォルダには最高99の用件が録音できます。
- 録音をする前に、あらかじめためし録りするか、録音モニター（27ページ）をしながら録音することをおすすめします。

メモリー残量表示について

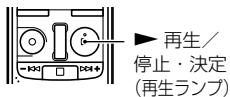
残量が減ると、ひとつずつ消えていきます。

録音中に残り時間が10分を切るとメモリー残量表示が点滅し、残り時間が1分を切ると「残り時間」表示モードに切り替わり、残量表示とカウンター表示が点滅します。不要な用件を消去してください。

聞く

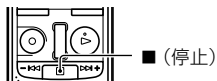
ご注意
再生を始める前に、ホールドを解除して電源を入れてください。

再生を始める

1 －I◀◀ または ▶▶I＋ボタンを押して、用件を選ぶ。

2 ▶ 再生／停止・決定ボタンを押す。
すぐに再生が始まり、再生ランプが緑に点灯します。

3 音量＋／－ボタンを押して、音量を調節する。

再生を止める

1 ■（停止）ボタンを押す。

その他の操作

再生の途中、その位置で停止する	■（停止）ボタンを押す。 もう一度 ► 再生／停止・決定ボタンを押すと、止めたところから再生が始まります。
今聞いている用件の頭に戻る	−⏮ を短く1回押す。*
前の用件、さらに前の用件に戻る	−⏮ を短く何回か押す。 （停止中は押したままにすると、連続して戻ります。）
次の用件に進む	⏭＋ボタンを短く1回押す。*
さらに次の用件に進む	⏭＋ボタンを短く何回か押す。 （停止中は押したままにすると、連続して進みます。）

* メニュー「イージーサーチ」が「切」に設定されている場合の操作です（46ページ）。

消す

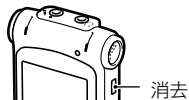
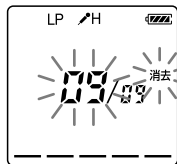
ご注意

- 一度消去した内容は元に戻せません。ご注意ください。
- 消去する前に、ホールドを解除して電源を入れてください。
- 保護設定がされていたら、その用件は消去されません。

用件を選び消去する

1 停止中または再生中に消去したい用件を選ぶ。

2 消去ボタンを長押しする。

確認音が鳴り、用件番号と「消去」が点滅し、消去したい用件が繰り返し再生されます。

3 「消去」の点滅中に消去ボタンをもう1度押す。

用件が消去され、以降の用件番号が繰り上がります。

途中で消去をやめる

1 「用件を選び消去する」の手順3の前に■（停止）ボタンを押す。

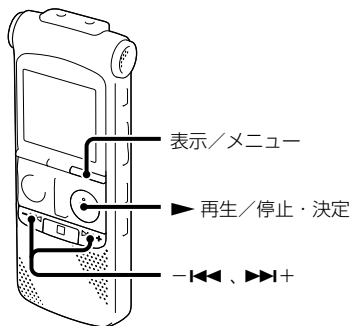
他の用件を消去するには

「用件を選び消去する」の手順1から手順3を繰り返します。

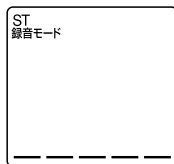
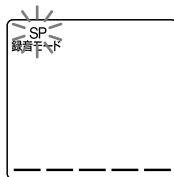
ひとつの用件の一部分だけ消去するには

用件分割で消去する部分としない部分に分け、消去したい部分の用件番号を選んで「用件を選び消去する」の手順1から手順3を繰り返します。

録音の設定を変える

録音モードを選ぶ

停止中にメニューで用途に応じた録音モードを選ぶことができます。

1 表示／メニューボタンを長押しして、メニューモードに入る。
メニュー画面が表示されます。

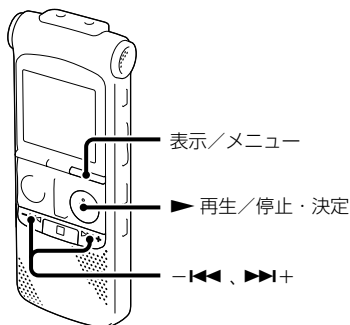
2 －I◄◄ または ►►I＋ボタンを押して、「録音モード」を選び、► 再生／停止・決定ボタンを押す。

3 －I◄◄ または ►►I＋ボタンを押して、「ST」、「STSP」、「STLP」、「SP」または「LP」を選び、► 再生／停止・決定ボタンを押す。

ST	ステレオ高音質モード（44.1 kHz/192 kbps） ステレオ音声で高音質な録音ができます。
STSP	ステレオ標準モード（44.1 kHz/128 kbps） ステレオ音声で録音ができます。
STLP	ステレオ長時間モード（22.05 kHz/48 kbps） ステレオ音声で長時間の録音ができます。
SP	モノラル標準モード（44.1 kHz/48 kbps） 標準の音質で録音ができます。
LP	モノラル長時間モード（11.025 kHz/8 kbps） 音質を重視しない簡易な録音、メモ録音はLPモードで長時間お使いになれます。

より良い音質で録音したいときは、STモードまたはSTSPモードをお使いください。
お買い上げ時は、「ST（ステレオ高音質モード）」設定になっています。

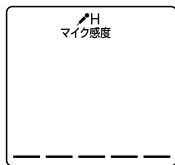
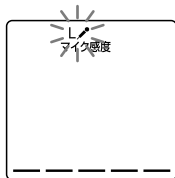
4 ■（停止）ボタンを押して、メニューモードを終了する。

ご注意

録音中は「録音モード」の切り換えはできません。

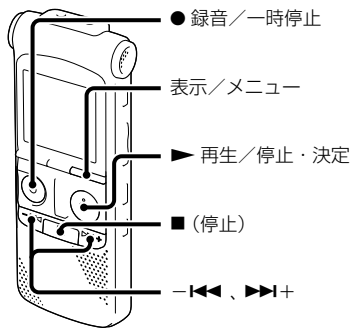
マイク感度を選ぶ

停止／録音時にメニューでマイク感度設定を切り換え、用途に合わせて、マイクの感度を選ぶことができます。

1 表示／メニューボタンを長押しして、メニューモードに入る。
メニュー画面が表示されます。

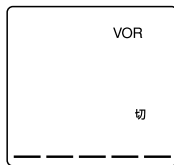
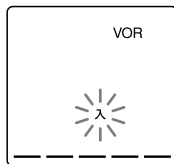
2 －⏮ または ⏭＋ボタンを押して、「マイク感度」を選び、 ► 再生／停止・決定ボタンを押す。

3 －⏮ または ⏭＋ボタンを押して、「**H**（会議）」または「**L**（口述）」を選び、 ► 再生／停止・決定ボタンを押す。

H（会議）	小さな音を大きくするとともに、全体の録音レベルを最適化することでバランスのとれた録音を実現します。広い会議室での録音など、遠くの音や小さい音を録音するときに使用します。
L（口述）	口述録音など、マイクを口元に近づけて録音したり、近くの音や大きい音を録音するときに使用します。

お買い上げ時は、「**H**（会議）」設定になっています。

4 ■（停止）ボタンを押して、メニューモードを終了する。

音がしたとき自動録音する — VOR（Voice Operated Recording）録音

停止／録音時に、メニューで、ある大きさ以上の音をマイクが拾うと自動的に録音が始まり、音が小さくなると録音が一時停止するように設定することができます。

1 表示／メニューボタンを長押しして、メニューモードに入る。
メニュー画面が表示されます。

2 −I◄◄ または ►►I＋ボタンを押して、「VOR」を選び、 ► 再生／停止・決定ボタンを押す。

3 −I◄◄ または ►►I＋ボタンを押して、「入」を選び、 ► 再生／停止・決定ボタンを押す。

お買い上げ時、「VOR」は「切」になっています。

4 ■（停止）ボタンを押して、メニューモードを終了する。

5 ● 録音／一時停止ボタンを押す。
録音 と「VOR」が表示されます。

マイクで拾う音が一定レベル以下まで小さくなると、「VOR」と「PAUSE」が点滅して、VOR録音が一時停止状態になります。
VOR録音一時停止状態のときに、マイクが一定レベル以上の大きさの音を拾うと、VOR録音が再開されます。

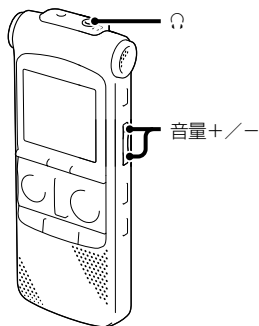
VOR録音を解除するには

手順3で「VOR」を「切」にします。

ご注意

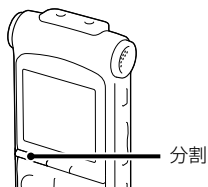
VOR機能は周囲の環境に左右されます。状況に合わせてマイク感度を切り換えてください。マイク感度を切り換えても思いどおりに録音できないときや、大切な録音をするときは、メニューで「VOR」を「切」に設定してください。

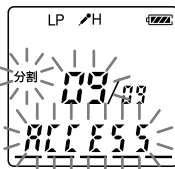
録音中に操作する

録音中の音をモニターする

イヤーレシーバーを（ヘッドホン）ジャックにつなぐと、録音中の音をモニターすることができます。
イヤーレシーバーからの音量（モニター音量）は、音量＋／－ボタンを押して調節します。録音される音量に影響はありません。

ご注意

録音中に音をモニターしている場合は「ノイズカット」の設定は無効になります。

録音の途中で用件を分割する

続けて録音しながら新しい用件として録音することができます。
一度分割すると再結合できません。

1 録音中に分割ボタンを押す。
押したところから新しい用件番号がつき、その番号と「ACCESS」が点滅します。ふたつの用件として録音されますが、続けて録音されます。

用件1	用件2	用件3

▲
用件分割

用件2と用件3は
続けて録音される

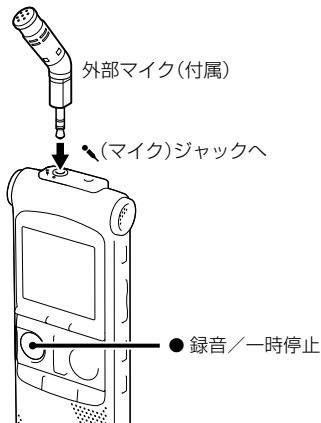
ヒント

録音一時停止中でも用件分割できます。

ご注意

- 用件を分割した場合、前の用件の最後とあとの用件の最初の音がわずかに切れることがあります。
- 用件のはじめから0.5秒までと終わりから0.5秒までの間では用件分割はできません。
- 録音中に頻繁に用件分割してから次の操作をしたとき、アクセスランプが点滅し、操作を受け付けるまでの時間が長くなることがありますが、故障ではありません。ランプが消えるまでお待ちください。
- 分割したあと、分割した位置の音声がわずかに重複する場合があり、分割した前後の用件から同じ音声が聞こえることがあります。
- A-Bリピートや1件リピート中に分割操作を行うとリピート設定が解除されます。
- 録音可能残量時間が3秒未満になると用件分割はできません。

接続して録音する

外部マイクをつないで録音する

1 停止中に付属の外部マイクを (マイク)ジャックにつなぐ。

2 ● 録音／一時停止ボタンを押す。

内蔵マイクは自動的に切れ、外部マイクの音を録音します。

入力レベルが適正ではない場合は、本機のマイク感度の設定を変更してください。

プラグインパワー対応のマイクを使うと、マイクの電源は本機から供給されます。

お使いになれるマイク

ソニー製エレクトレットコンデンサーマイクロホン（ステレオマイク） ECM-CS10、ECM-CZ10、ECM-DS70P（別売）などをお使いいただけます。

ご注意

付属のマイクはモノラルですが、モノラルからステレオに変換する回路を内蔵していますので、両方のチャンネルに音が録音されます。別売の外部マイクがモノラルの場合、「録音モード」が「STLP」、「STSP」または「ST」に設定されていると、片方のチャンネルにしか音が録音されません。その場合は、「録音モード」を「SP」または「LP」に設定するか、モノラルからステレオに変換する変換プラグ（別売）をお使いください。

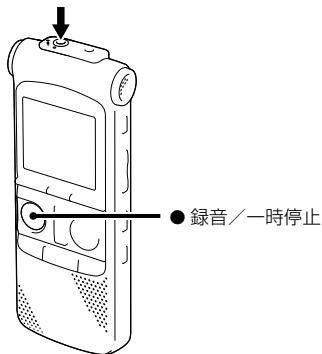
電話機や携帯電話の音声を録音する

別売の電話録音用マイク、ECM-TL1を使うと､電話機や携帯電話での自分と相手の声を録音することができます。
接続方法などについて詳しくは、ECM-TL1の取扱説明書をご覧ください。

ご注意

- 録音する場合には､本機と接続後､通話状態と録音レベルをご確認の上ご使用ください。
- 呼び出し音､発信音を録音した場合､会話が小さい音で録音されることがあります。そのような場合には､通話状態になってから本機を録音状態にしてください。
- 電話機の種類､回線の状況によってVOR機能が働かないことがあります。
- 本機を使って通話録音をした場合､万一､これらの不都合により録音されなかった場合は､一切の責任を負いません。

他の機器の音声を録音する

テープレコーダなど

CDプレーヤーなど他の機器の音声を本機に録音することによって､パソコンを使わなくても､音楽ファイルを作成することができます。

1 停止中に他の機器を本機につなぐ。

他の機器(テープレコーダーやテレビ、ラジオなど)のイヤホン端子を､付属のオーディオコード(抵抗入り)を使って(マイク)ジャックとつなぎます。

2 ● 録音／一時停止ボタンを押す。

内蔵マイクは自動的に切れ、つないだ機器の音声を録音します。

ヒント

- 録音をする前に、あらかじめためし録りをしてから、録音することをおすすめします。
- 入力レベルが適正ではない場合は、他の機器のヘッドホン端子（ステレオミニジャック）を使って本機と接続し、つないだ機器側で音量を調節してください。

ご注意

他の機器の出力がモノラルの場合、「録音モード」が「STLP」、「STSP」または「ST」に設定されていると、片方のチャンネルにしか音が録音されません。その場合は、「録音モード」を「SP」または「LP」に設定するか、モノラルからステレオに変換する変換プラグ（付属）をお使いください。

再生の方法を変える

より便利な再生方法

高音質で再生するには

- イヤーレシーバーで聞く：
  付属のステレオイヤーレシーバーを🎧（ヘッドホン）ジャックにつないでください。スピーカーからは音が出なくなります。
- 外部スピーカーで聞く：
  別売のアクティブスピーカーを🎧（ヘッドホン）ジャックにつないでください。

聞きたいところをすばやく探すには —イージーサーチ機能

メニューの中で「イージーサーチ」を「入」に設定しておくと、再生中に▶▶I＋ボタンまたは−I◀◀ ボタンを何度か押して聞きたいところまで早送り、早戻しをして聞くことができます（46ページ）。−I◀◀ ボタンを1回押すごとに約3秒前、▶▶I＋ボタンを1回押すごとに約10秒先を再生します。会議録音などで、聞きたいところをすばやく探すのに便利です。

再生中に早送り／早戻しするには（キュー／レビュー）

- 早送り（キュー）：
  再生中に▶▶I＋ボタンを押したままにして、聞きたいところで離します。
- 早戻し（レビュー）：
  再生中に−I◀◀ ボタンを押したままにして、聞きたいところで離します。

最初は少しずつ早送り／早戻しされるので、1語分だけ戻したり、送ったりして聞きたいときに便利です。押し続けると、高速での早送り／早戻しになります。

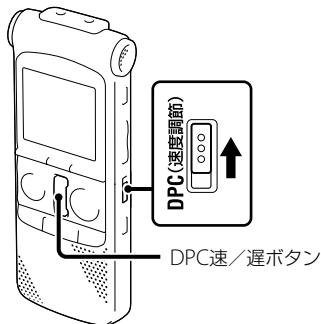
💡最後の用件の終わりまで再生または早送り（キュー）すると

- 最後の用件の終わりまで来ると、「END」表示が約5秒間点滅します。
  点滅中は再生ランプは緑に点灯しています（再生音は聞こえません）。
- 「END」の点滅と再生ランプが消えると、最後の用件の頭に戻って止まります。
- 「END」の点滅中に−I◀◀ ボタンを押したままにすると、早戻しされ、離したところから再生が始まります。

- 最後の用件が長時間の用件の場合で、用件中の後ろの方を探して再生したい場合は、▶▶I＋ボタンを押し続けていったん用件の最後まで早送りして、「END」表示の点灯中に－I◀◀ ボタンを押して聞きたいところまで早戻しして探すと便利です。
- 最後の用件以外の場合は、次の用件の頭に送ってから再生中に早戻しするとすばやく探せます。

1件リピート再生するには

再生中に ▶ 再生／停止・決定ボタンを長押しします。
「⊊」が表示され、その用件が繰り返し再生されます。
通常再生に戻るには、▶ 再生／停止・決定ボタンを押します。

再生速度を調節する — DPC（デジタル・ピッチ・コントロール）

再生速度を＋100%から－50%の間で調節できます。その際、音程はデジタル処理により、自然に近いレベルで再生します。

1 停止／再生時にDPC（速度調節）入／切スイッチを「入」にする。

2 再生速度を早くしたい場合は、再生中にDPC速ボタンを押す。
ボタンを押すごとに、－50% ～ 0%の間は「＋5%」刻み、0% ～ 100%の間は「＋10%」刻みで再生速度を設定します。

3 再生速度を遅くしたい場合は、再生中にDPC遅ボタンを押す。

ボタンを押すごとに、－50% ～ 0%の間は「－5%」刻み、0% ～ 100%の間は「－10%」刻みで再生速度を設定します。

通常の再生速度に戻すには

DPC（速度調節）入／切スイッチを「切」にします。

ご注意

DPC（速度調節）入／切スイッチが「切」になっていると、DPC速または遅ボタンを押しても「DPC OFF」が点滅して調節することができません。DPC（速度調節）入／切スイッチを「入」にしてください。

再生の設定を変える

再生モードを変える

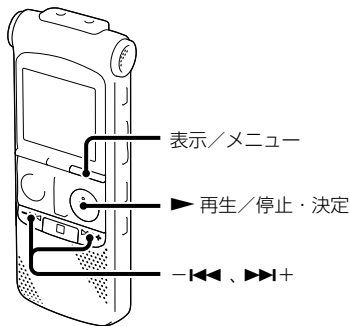
必要な部分だけを再生する — A-Bリピート

1 再生中に ⮎(リピート) A-Bボタンを押して、A点を指定する。
「A-B B」が表示されます。

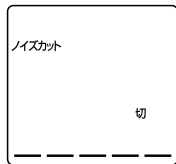
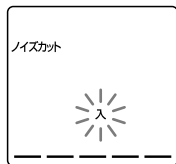
2 もう一度 ⮎(リピート) A-Bボタンを押して、B点を指定する。
「⮎」と「A-B」が表示されて、指定した区間が繰り返し再生されます。

A-Bリピート再生を止めて通常の再生に戻すには：
► 再生／停止・決定ボタンを押します。
A-Bリピート再生を停止するには：
■ (停止)ボタンを押します。
A-Bリピートの範囲を変えるには：
A-Bリピート再生中にもう一度 ⮎ A-Bボタンを押すと、手順1に戻り、新しいA点が設定されます。手順2に従ってB点を指定します。

ご注意
A点より前にB点の設定はできません。

雑音を低減して音声を聞きやすくする — ノイズカット機能

録音した音声を聞きやすくするために、音声帯域には影響の出ない低域と高域の雑音を低減します。

1 停止／再生時に表示／メニューボタンを長押しして、メニューモードに入る。
メニュー画面が表示されます。

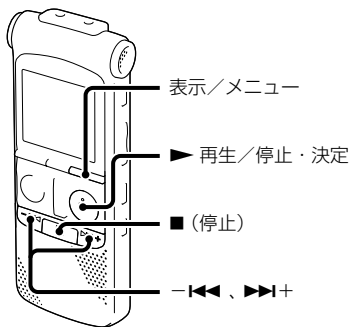
2 －◄◄ または ►►I＋ボタンを押して、「ノイズカット」を選び、► 再生／停止・決定ボタンを押す。

3 －◄◄ または ►►I＋ボタンを押して、「入」を選び、► 再生／停止・決定ボタンを押す。

4 ■（停止）ボタンを押して、メニューモードを終了する。

ご注意

- 録音した音声の状態によって、効果に違いがでる場合があります。
- 内蔵スピーカーでは効果が出にくい場合があります。

ノイズカットを解除するには

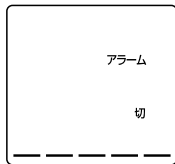
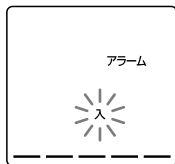
手順3で「ノイズカット」を「切」にします。

希望の時刻に再生を始める — アラーム再生

あらかじめ設定した時刻にアラーム音とともに用件を再生できます。
特定の日付を指定したり、毎週同じ曜日や毎日同じ時刻に再生するように設定できます。
1用件につき1件のアラーム設定ができます。

1 アラーム再生したい用件を表示させる。

2 アラーム設定をする。

①停止中に表示／メニューボタンを長押しして、メニューモードに入る。
メニュー画面が表示されます。

②－⏮ または ⏭＋ボタンを押して、「アラーム」を選び、► 再生／停止・決定ボタンを押す。

③－⏮ または ⏭＋ボタンを押して、「入」を選び、► 再生／停止・決定ボタンを押す。

3 アラーム再生したい日時、時刻を設定する。

①−⏮ または ⏭＋ボタンを押して、「DATE（日時）」、「MON（月曜日）」や「TUE（火曜日）」など設定したい曜日、または「DAILY（毎日）」を選び、▶ 再生／停止・決定ボタンを押す。

②**「DATE（日時）」を選んだ場合**：
「準備4：時計を合わせる」（13ページ）に従って年月日、時刻を設定します。
曜日や「DAILY（毎日）」を選んだ場合：
−⏮ または ⏭＋ボタンを押して「時」を選び、▶ 再生／停止・決定ボタンを押し、同じように−⏮ または ⏭＋ボタンを押して「分」を選び、▶ 再生／停止・決定ボタンを押します。

4 アラームパターンを設定する。
−⏮ または ⏭＋ボタンを押して、「B-PLAY」（アラーム音のあと、再生）、「BEEP」（アラーム音のみ鳴る）または「PLAY」（再生のみ）を選び、▶ 再生／停止・決定ボタンを押す。
「アラーム　入」が表示されます。

5 ■（停止）ボタンを押して、メニューモードを終了する。
メニューを終了すると「(•)」が表示されて、選んだ用件にアラームが設定されます。

設定内容を変更するには
「希望の時刻に再生を始める―アラーム再生」の手順1 ～ 2を行い、現在設定されているアラーム再生日が表示されたら手順3 ～ 4で新しい内容で設定します。

設定内容を解除するには
「希望の時刻に再生を始める―アラーム再生」の手順2-③で−⏮ または ⏭＋ボタンを押して「切」を選び、▶ 再生／停止・決定ボタンを押して決定するとアラームは解除されます。表示窓のアラーム表示が消えます。

設定した時刻になると

「アラーム」が点滅し、アラーム再生が始まります。
再生が終わると、自動的に停止します(アラームパターンで「B-PLAY」または「PLAY」が設定されている場合は、アラーム再生した用件の頭に戻ります)。

アラーム再生された用件をもう一度聞くには

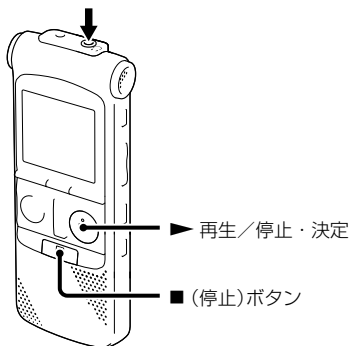
► 再生/停止・決定ボタンを押すと、その用件のはじめから再生されます。

アラーム再生を止めるには

アラーム再生中に音量+/−以外のボタンを押します。ホールド中は、どのボタンを押しても止められます。

ご注意

- 時計を合わせていない場合や、用件が録音されていない場合は、アラーム設定はできません。
- メニューで「操作音」を「切」に設定していてもアラームが鳴ります。
- 録音中にアラーム設定した時刻になった場合は、「(•)」表示のみが点滅し、録音を終了したときにアラームが鳴り始めます。
- データ更新中にアラーム設定した時刻になった場合は、そのアラームは自動的に破棄されます。
- 2つ以上のアラーム設定時刻になった場合は、時刻の早い方の用件のみアラームが鳴ります。
- 一度設定したアラームは、アラーム再生を終了したあとも解除されません。
- アラーム再生中に別の用件の設定時刻になった場合、用件の途中で次のアラーム再生が始まります。
- アラーム設定した用件を分割した場合、分けた時点より前の用件にのみアラーム設定されます。
- アラーム設定した用件を消去すると、用件に設定されたアラームも一緒に解除されます。

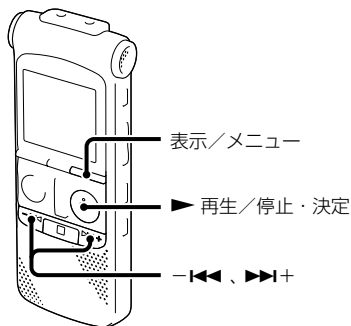
他の機器で録音する

他の機器で本機の音声を録音できます。
録音をする前に、あらかじめためし録りをしてから、録音することをおすすめします。

1 付属のオーディオコードを使って、本機の ♎（ヘッドホン）ジャックと他の機器のマイクジャックをつなぐ。

2 本機の ► 再生／停止・決定ボタンを押して再生状態にし、同時に、つないだ機器の録音ボタンを押して、録音状態にする。

本機の用件が他の機器に録音されます。

3 録音を止めるには、本機の ■（停止）ボタンを押し、つないだ機器の停止ボタンを押す。

全用件を一度に消去する

ご注意

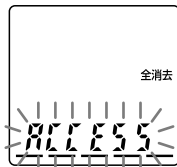
- 用件に保護設定がされていたら、その用件は消去されません。
- 一度消去した内容は元に戻せません。ご注意ください。

1 停止中に表示／メニューボタンを長押しして、メニューモードに入る。

メニュー画面が表示されます。

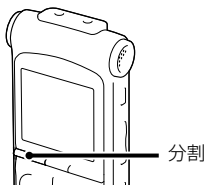
2 －I◄◄ または ►►I＋ボタンを押して、「全消去」を選び、► 再生／停止・決定ボタンを押す。

3 －I◄◄ または ►►I＋ボタンを押して、「YES」を選び、 ► 再生／停止・決定ボタンを押す。

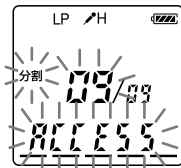
「ACCESS」が表示され、フォルダ内の全用件が消去されます。

4 ■（停止）ボタンを押して、メニューモードを終了する。

途中で消去をやめるには

手順3で「NO」を選び、► 再生／停止・決定ボタンを押します。

用件をふたつに分ける — 用件分割

再生中に用件を分割して、その場所に新しい用件番号が付けられます。会議など1件の用件が長時間になったときなどに、複数の用件に分割しておくと再生したい場所がすばやく探せ、便利です。分割したい用件が入っているフォルダの用件数がいっぱいになるまで、用件を分割できます。

1 再生中に分割ボタンを押す。
「分割」と分割する要件番号が点滅します。

2 もう1度分割ボタンを押す。
新しい用件番号がつき、以降の用件番号はひとつずつ送られます。

用件1	用件2		用件3
	▲ 用件分割		
用件1	用件2	用件3	用件4

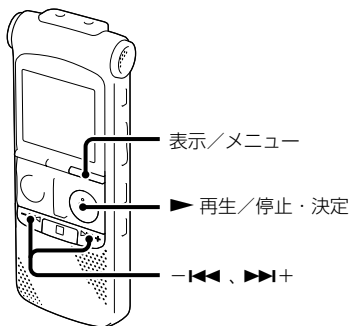
用件番号が1つずつ増える

ご注意

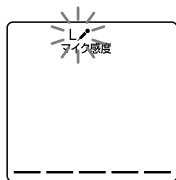
- 用件を分割するには、メモリーに一定の空き容量が必要です。
- 用件タイトル、アーティスト名は分割した後ろの用件も同じになります。
- 分割した用件は再結合できません。（元には戻せません。）
- アラーム設定した用件を分割すると、分割した後ろの用件にはアラーム設定は残りません。
- 用件のはじめから0.5秒までと終わりから0.5秒までの間では用件分割はできません。

用件分割した部分を探して聞くには

分割した用件を1件として用件番号がついているので、用件番号を探すときと同様に−⏮ ボタンまたは ⏭+ボタンを押して再生する部分を探してください。

メニューの使いかた

1 表示／メニューボタンを長押しして、メニューモードに入る。
メニュー画面が表示されます。

2 −I◄◄ または ►►I＋ボタンを押して、設定したい項目を選び、► 再生／停止・決定ボタンを押す。

3 −I◄◄ または ►►I＋ボタンを押して、設定し、► 再生／停止・決定ボタンを押す。

4 ■（停止）ボタンを押して、メニューモードを終了する。

ご注意
約1分間なにもしないと、メニューモードが自動的に解除され、通常の画面に戻ります。

1つ前の画面に戻るには

メニュー操作中に表示／メニューボタンを押します。

メニューモードを中止するには

■（停止）ボタンを押します。

メニュー一覧

メニュー	設定項目	動作モード （○：設定可能／－：設定不可）		
		停止中	再生中	録音中
録音モード	LP、SP、STLP、STSP、ST	○	－	－
マイク感度	**H、L**	○	－	○
VOR	入、切	○	－	○
ノイズカット	入、切	○	○	－
イージーサーチ	入、切	○	○	－
時計	AUTO、MANUAL（_ _年_ _月_ _日、_ _:_ _）	○	－	－
操作音	入、切	○	－	－
ランプ	入、切	○	－	－
充電	入、切	○	－	－
アラーム	入、(DATE (日時)、SUN (日曜日)、MON (月曜日)、 TUE (火曜日)、WED (水曜日)、THU (木曜日)、 FRI (金曜日)、SAT (土曜日)、DAILY (毎日)； B-PLAY、BEEP、PLAY)、切	○	－	－
保護	入、切	○	－	－
全消去	YES、NO	○	－	－

メニュー	設定項目（*：初期設定）	参照ページ
録音モード	音質などを設定します。 ST*：　ステレオ高音質モード STSP：ステレオ標準モード STLP：ステレオ長時間モード SP：　モノラル標準モード LP：　モノラル長時間モード	22
マイク感度	マイクの感度を設定します。 H*：　広い会議室での録音など、遠くの音や小さい音を録音するときに使用します。 L：　口述録音など、マイクを口元に近づけて録音したり、近くの音や大きい音を録音するときに使用します。	23
VOR	VOR（Voice Operated Recording）機能を設定します。 入：　ある大きさ以上の音をマイクが拾うと自動的に録音が始まり、音が小さくなると録音を一時停止します。● 録音／一時停止ボタンを押して、録音を始めるとVOR機能が働きます。 切*：　VOR機能は働きません。	25
ノイズカット	ノイズカットを設定します。 入：　音声帯域には影響の出ない低域と広域の雑音を低減して音声をより聞きやすくします。 切*：　ノイズカット機能は働きません。	35
イージーサーチ	イージーサーチを設定します。 入：　再生中、コントロールボタンの ▶▶I＋（早送り）を押すと、約10秒進め、－I◀◀（早戻し）を押すと、約3秒戻ります。会議録音などで、聞きたいところをすばやく探すのに便利です。 切*：　イージーサーチ機能が働きません。コントロールボタンの▶▶I＋（早送り）または －I◀◀（早戻し）を押すと、用件を早送り／早戻しします。	32

メニュー	設定項目（*：初期設定）	参照ページ
時計	AUTO*（自動）： 本機をコンピューターにつないで、Digital Voce Editorを起動すると、コンピューターの時計に自動的に合わせます。 MANUAL（手動）： 「年」「月」「日」「時」「分」をそれぞれ指定して時計を合わせます。	13
操作音	確認音を設定します。 入*：　操作時の受け付け確認音およびエラーのビープ音が鳴ります。 切：　操作時の受け付け確認音やエラー音が鳴りません。 **ご注意** 「切」に設定していてもアラームは鳴ります。	—
ランプ	録音、再生、アクセスランプの点灯、消灯を設定します。 入*：　動作中はランプが点灯または点滅します。 切：　動作中もランプは点灯／点滅しません。 **ご注意** パソコンに接続しているときは、「切」に設定していてもアクセスランプは点灯／点滅します。	—
充電	パソコンにUSB接続中の充電の入／切を設定します。 入*：　充電式電池を充電します。 切：　充電機能は働きません。 **ご注意** 別売のUSB ACアダプターを使って充電するときは、この設定は関係ありません。	56

メニュー	設定項目（*：初期設定）	参照ページ
アラーム	アラーム再生を設定します。 入：　アラームを設定します。「入」を選んだあとで、再生を始める日時や、曜日または毎日再生をする場合の時刻とアラームパターンを設定します。 切*：　アラームを解除します。	37
保護	用件を保護して、消去や分割ができないようにします。 入：　用件を保護します。 切*：　保護設定を解除します。	—
全消去	フォルダの中身をすべて消去します。 YES：　「ACCESS」が表示されて、すべての用件を消去します。 NO*：　消去しません。 **ご注意** メニューの「保護」設定が「入」になっている用件は消去しません。	41

付属のDigital Voice Editorを使う

Digital Voice Editorでできること

Digital Voice Editorを使って、本機に録音した用件をパソコンに取り込み、用件の管理、再生などを行うことができます。
使用方法の詳細はDigital Voice Editorのヘルプをご覧ください。
パソコンに保存されている音楽ファイルを本機に追加できます。

本機で録音した用件をパソコンに取り込む

本機に録音した用件を、USB接続で、用件単位、フォルダ単位、または全用件ごとパソコンのハードディスクなどに保存できます。保存形式は、"メモリースティック"などのMSV（LPEC）ファイル、MSV（ADPCM）ファイル、MP3ファイル、Windows標準のWAVファイルから選べます。

パソコン上で用件を再生する

用件をパソコン上で再生することができます。通常の再生のほか、1件リピート再生、AB間リピート再生、イージーサーチを行うことができます。また、再生スピードの調節も可能です。

パソコンに保存した用件を本機に追加、本機で再生する

一度パソコンに保存した用件はもちろん、E-mailなどで受け取った音声ファイル、MSV（LPEC/ADPCM）、MAV、WMA、MP3形式を用件単位、フォルダ単位で、USB接続で本機に追加することができます。追加した用件は、本機上で再生できます。

パソコン上で本機内またはパソコンに保存された用件を編集する

用件のフォーマットによって、用件タイトルやユーザー名の変更、用件のソート、重要マークやブックマークの設定／解除、用件の分割／結合など、パソコン上でさまざまな編集が可能です。本機内の用件については、パソコン上で順番を移動させることができます。また、パソコン内に保存された用件については、音声ファイル形式を変換して保存することができます。

オリジナルの音楽CDやデータCDを作成する

CD Burning Tool for DVE、を起動して、本機で録音した用件やDigital Voice Editorでパソコンのハードディスクに保存したお好みの用件からオリジナルの音楽CDやデータCDを作ることができます。

その他の便利な使いかた

– Microsoft Outlook ExpressなどのMAPI対応のメール送信ソフトウェアを利用して音声ファイルを添付して音声メールを送れます。
– 別売の音声認識ソフトウェアDragon NaturallySpeaking™との組み合わせで、本機で録音し、Digital Voice Editorでパソコンに取り込んだ音声を、文字に変換（テキスト変換）することができます。
– Digital Voice Editor側で本機のユーザー名やアラーム再生の設定／解除やその他の動作モードなどを変更することができます。
– CD Recording Tool for DVEを起動して、CDの音声を再生したり、パソコンのハードディスクにDigital Voice Editorの音声ファイル形式で保存することができます。保存したファイルは、Digital Voice Editorを使って本機に追加できます。

CD Recording Tool for DVE、およびCD Burning Tool for DVEは、個人の使用の範囲内でお使いください。

Digital Voice Editorをインストールする

Digital Voice Editorをパソコンのハードディスクなどにインストールします。

ご注意

- Windows® XPについては、64bit版のOSは動作保証いたしません。
- インストールの途中で本機の接続ケーブルを抜き差ししないでください。正常にインストールされないことがあります。
- Windows® 2000 Professional上でインストールを行う場合、必ずユーザー名「Administrator」でログオンしたあとに行ってください。
- 本ソフトウェアをインストールしたあとに、Memory Stick Voice Editor 1.0/1.1/1.2/2.0をインストールしないでください。本ソフトウェアが正常に動作しなくなります。（本機で"メモリースティック"上の用件の操作、編集ができます。）
- 本ソフトウェアをインストールすると、インストール先のOSによっては Microsoft DirectXのモジュールがインストールされる場合があります。このモジュールは本ソフトウェアのアンインストールによって削除はされません。
- インストールを始める前に、Windowsの他のアプリケーションは終了させておいてください。既存のDigital Voice Editorを起動している場合も終了させてください。
- パソコンに必要なシステム構成については「必要なシステム構成」（61ページ）をご覧ください。

1 本機を接続していないことを確認し、パソコンの電源を入れ、Windows®を起動する。

2 付属のCD-ROMをCD-ROMドライブに挿入する。

CD-ROMを入れると「IC Recorder Software Setup」が自動的に起動し「ICレコーダーソフトウェアセットアップ」の画面が表示されます。
起動しない場合は、WindowsエクスプローラでCD-ROMドライブを右クリックして開き、「SetupLauncher.exe」をダブルクリックしてください。

3 使用許諾契約の内容を確認したら、「使用許諾契約に同意します」を選び、「次へ」をクリックする。

「ソフトウェアインストール」の画面が表示されます。

4 「Digital Voice Editor」を選び、「インストール」をクリックする。
インストール設定を行います。画面の指示に従って操作してください。

Digital Voice Editorの旧バージョン/Memory Stick Voice Editorをインストールしている場合
旧バージョンのDigital Voice Editor/Memory Stick Voice Editorを削除するダイアログボックスが表示されます。画面の指示に従ってアンインストールを行ってください。用件ファイルは削除されません。

ご注意
不正なデータ改ざんを行った場合や、個人の使用の範囲外でファイルが使用された場合は、ファイルが再生できなくなったり、Digital Voice Editorが起動できなくなる場合があります。

保存方法を選択する画面が表示されたら
本機で録音したファイルをパソコンに保存するとき、MP3フォーマットに変換するかどうかを設定します。お好みに応じて選んでください。

ヘルプで使用する言語選択の画面が表示されたら
ヘルプで使いたい言語をクリックします。

5 「インストール準備の完了」の画面が表示されたら、[インストール]をクリックする。
インストールが始まります。

6 「InstallShield Wizardの完了」の画面が表示されたら、[はい、今すぐコンピュータを再起動します。]を選び、[完了]をクリックする。
パソコンが再起動します。再起動後、インストールは完了します。

アンインストールする

このソフトウェアが不要になった場合は、以下の手順で削除してください。

Windows2000/XPの場合

1 [スタート]ボタンをクリックし、[設定]→[コントロールパネル]→[プログラムの追加と削除]もしくは[アプリケーションの追加と削除]を順に選ぶ。

2 一覧より[Digital Voice Editor 3]を選択した状態で、「削除」または「変更と削除」をクリックする。

3 画面の表示に従って操作する。

Windows Vistaの場合

1 [スタート]ボタンをクリックし、[コントロールパネル]→[プログラム]カテゴリ内の[プラグラムのアンインストール]をクリックする。

2 一覧より[Digital Voice Editor 3]を選択した状態で[アンインストールと変更]をクリックする。

3 [ユーザアカウント制御]画面で、[続行]をクリックする。

4 画面の表示に従って操作する。

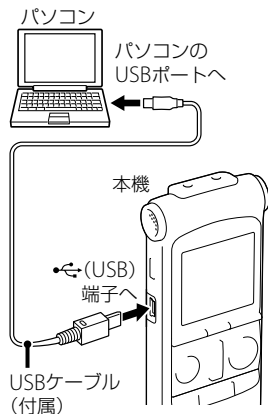
ご注意

このソフトウェアを一度インストールしたあと、別のドライブまたはフォルダに移動させる場合は、アンインストールしてから再度インストールを行ってください。ファイルを移動しただけでは、ソフトウェアは動作しなくなります。

ヒント

ソフトウェアを削除しても、パソコンに保存した用件ファイルは削除されません。

本機をパソコンに接続する

本機とパソコンで用件をやり取りするためには、本機をパソコンに接続します。
本機の (USB)端子とパソコンのUSBポートを、付属のUSBケーブルで接続します。
接続するとパソコン側で本機を認識することができ、用件のやり取りが行えます。
USBケーブルは、本機とパソコンの電源の入／切に関係なく抜き差しできます。

ご注意

- 本機とパソコンを接続する前にDigital Voice Editorをインストールしてください。本機とパソコンを接続したときに「新しいハードウェアの検索ウィザード」というメッセージが表示された場合は「キャンセル」をクリックしてください。
- 1台のパソコンに2台以上のUSB機器を接続した場合の動作保証はいたしかねます。
- USBハブ、またはUSB延長ケーブルをご使用の場合の動作保証はいたしかねます。必ず、付属のUSBケーブルのみで接続してください。
- 同時にお使いになるUSB機器によっては、正常に動作しないことがあります。
- パソコン接続時は必ず電池を挿入してからお使いください。
- 本機の停止中に本機とパソコンを接続してください。
- パソコンとは必要なときだけ接続することをおすすめします。パソコンを使って操作しないときは、USBケーブルははずしておいてください。

ヘルプを見る

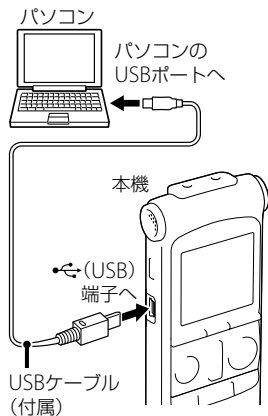
各操作の詳細はヘルプを参照してください。

本機をパソコンから取りはずす

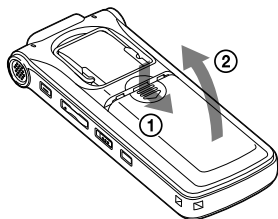
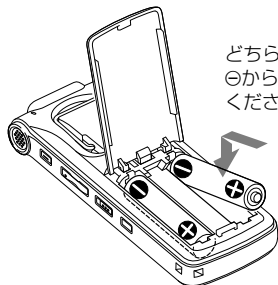
必ず下記の手順で取りはずしてください。この手順で行わないと、データが破損するおそれがあります。

1. アクセスランプが消えていることを確認する。

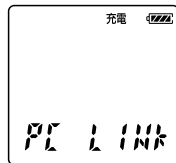
2. 本機をパソコンのUSBポートから取りはずす。
   アクセスランプが点灯していないかを確認してから取り外してください。

パソコンにつないで充電する

別売の充電式ニッケル水素電池を使うと、パソコンにつないで充電できます。
本機を起動しているパソコンと接続して、「充電完了」が表示されるまで充電してください。
はじめてお使いになる場合や、しばらくお使いにならなかった場合は、「充電完了」が表示されるまで連続して充電してください。

電池を使いきった状態から約4時間で充電が完了します。*
別売のUSB ACアダプターを使って充電することもできます。

1 電池ぶたを矢印の方向へずらして開ける。

2 単4形充電式ニッケル水素電池（別売）を2本入れ、ふたを閉める。

3 パソコンと本機をつなぐ。

本機の •⇠(USB)端子とパソコンのUSBポートを、付属のUSBケーブルで接続します。

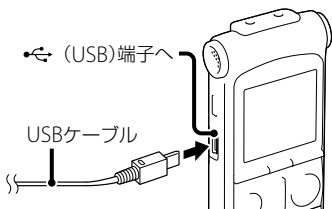
充電中は、「充電」と表示されます。

4 本機をパソコンから取りはずす。

必ず「本機をパソコンから取りはずす」（55ページ）手順で取りはずしてください。この手順で行わないと、本機にデータが入っている場合に、データが破損して再生できなくなるおそれがあります。

＊ 室温で電池残量が無い状態から電池を充電したときの目安です。電池の残量や電池の状態などにより、上記の充電時間と異なる場合があります。また、充電式電池の温度が低い場合や、データを本機に転送中なども充電時間は長くなります。

ご注意

- 充電中は本体が温かくなることがありますが異常ではありません。
- パソコンがスタンバイ、休止モード中は、充電できません。

USB ACアダプター（別売）につないで使う

USB ACアダプター（別売）を使って、本機と家庭用電源（コンセント）をつなぐと充電式電池を充電できます。充電をしながら本機を使用することができるため、長時間録音をする場合などに便利です。
はじめてお使いになる場合や、しばらくお使いにならなかった場合「充電完了」が表示されるまで連続して充電してください。電池を使いきった状態から約4時間で充電が完了します。*

1 別売のUSB ACアダプターをコンセントにつなぐ。

2 USBケーブルにUSB ACアダプターをつなぐ。

3 本機の (USB)端子に、付属のUSBケーブルをつなぐ。

充電しながら本機を使うことができます。
内蔵スピーカー再生中は充電できません。

* 室温で電池残量が無い状態から電池を充電したときの目安です。電池の残量や電池の状態などにより、上記の充電時間と異なる場合があります。また、充電式電池の温度が低い場合や、データを本機に転送中なども充電時間は長くなります。

ご注意

充電中は本体が温かくなることがありますが異常ではありません。

本機を取りはずす

必ず下記の手順で取りはずしてください。この手順で行わないと、データが破損するおそれがあります。

1 録音や再生などの動作中の場合、■（停止）ボタンを押して動作を停止する。

2 アクセスランプ、録音ランプ、または再生ランプが点滅していないことを確認する。

3 本機をUSB ACアダプターから取りはずし、USB ACアダプターをコンセントから抜く。

ご注意

- 録音中（録音ランプが赤に点灯、点滅）やアクセス中（アクセスランプがオレンジに点滅）はコンセントにつないだ状態のUSB ACアダプターから本機を抜き挿ししたり、本機を接続したUSB ACアダプターをコンセントから抜き挿ししたりしないでください。データが破損するおそれがあります。また、用件数が多いと、起動画面が長時間表示されることがありますが、故障ではありません。表示が消えるまでお待ちください。
- USB ACアダプター（別売）使用時は、電池マークは表示されません。

使用上のご注意

ご使用場所について

運転中のご使用は危険ですのでおやめください。

取り扱いについて

- 落としたり、強いショックを与えたりしないでください。故障の原因になります。
- 次のような場所には置かないでください。
  - 温度が非常に高いところ(60℃以上)。
  - 直射日光のあたる場所や暖房器具の近く。
  - 窓を閉めきった自動車内(特に夏期)。
  - 風呂場など湿気の多いところ。
  - ほこりの多いところ。
- 水がかからないようご注意ください。
  本機は防水仕様ではありません。特に以下の場合ご注意ください。
  - 洗面所などで本機をポケットに入れての使用。
    身体をかがめたときなどに、落として水濡れの原因になる場合があります。
  - 雨や雪、湿度の多い場所での使用。
  - 汗をかく状況での使用。
    濡れた手で触ったり、汗をかいた衣服のポケットに入れると、水濡れの原因になることがあります。
- 空気が乾燥する時期に耳にピリピリと痛みを感じることがありますが、ヘッドホンの故障ではなく人体に蓄積された静電気によるものです。静電気の発生しにくい天然素材の衣服を身に着けていただくことにより軽減されます。

万一故障した場合は、内部を開けずにお買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。

ノイズについて

- 録音中や再生中に本機を電灯線、蛍光灯、携帯電話などに近づけすぎると、ノイズが入ることがあります。
- 録音中に本機に手などが当たったり、こすったりすると、雑音が録音されることがあります。

お手入れ

本体表面が汚れたときは、水気を含ませた柔らかい布で軽くふいたあと、からぶきします。シンナーやベンジン、アルコール類は表面の仕上げを傷めますので使わないでください。

主な仕様

必要なシステム構成

付属のソフトウェアを使うためには、次のようなハードウェア、ソフトウェアが必要です。

OS

- Windows Vista® Ultimate Service Pack 1 以降
- Windows Vista® Business Service Pack 1 以降
- Windows Vista® Home Premium Service Pack 1 以降
- Windows Vista® Home Basic Service Pack 1 以降
- Windows® XP Media Center Edition 2005 Service Pack 3 以降
- Windows® XP Media Center Edition 2004 Service Pack 3 以降
- Windows® XP Professional Service Pack 3 以降
- Windows® XP Home Edition Service Pack 3 以降
- Windows® 2000 Professional Service Pack 4 以降
- 標準インストール（日本語版のみ）

ご注意

- 上記以外のOSは動作保証いたしません。（Windows® 98/Mac OS/Linuxなど）
- Windows® XPについては、64bit版のOSは動作保証いたしません。
- 最新の対応OSについては、ICレコーダーカスタマーサポートページ http://www.sony.co.jp/ic-rec-support をご覧ください。

以下の性能を満たしたIBM PC/ATおよびその互換機

- CPU：Pentium Ⅱ 266MHz以上（Windows Vista® 使用の場合Pentium III 800MHz以上）
- RAM容量：128MB以上（Windows Vista® 使用の場合 512MB以上）
- ハードディスクの空き容量：300MB以上（お使いのWindowsのバージョンや音声データの扱う量に比例して必要な空き容量が変化します）
- ドライブ：CD-ROMドライブ（音楽CD、データCDを作成する場合は、CD-R/RWドライブが必要です）
- USB ポート
- サウンドボード：OSの項に記載されたMicrosoft® Windows®に対応のもの

- ディスプレイ：ハイカラー（16ビットカラー）以上、800 x 480ドット以上
- インターネット接続環境：音声メール機能および音楽CDのデータベースサービス（CDDB）利用の場合

ご注意

推奨環境すべてのパソコンについて動作を保証するものではありません。また、自作パソコンなどへお客様自身がインストールしたものや、NEC PC-98シリーズとその互換機、アップグレードしたもの、マルチブート環境、マルチモニタ環境、Macintoshでの動作保証はいたしません。

音声認識をお使いになる場合のご注意

音声認識ソフトウェアDragon Naturally Speaking™（別売／他社製）と組み合わせて音声認識機能を使う場合は、上記に加えてDragon NaturallySpeaking™が必要なシステム構成（動作環境）も満たしている必要があります。

音声メール送信機能をお使いになる場合のご注意

以下のメールソフトウェアと組み合わせてお使いになれます。上記に加えてお使いになるソフトウェアが必要なシステム構成（動作環境）も満たしている必要があります。なお、音声メールを送るには、別途インターネットサービスプロバイダと契約する必要があります。

- Microsoft® Outlook Express 5.0/5.5/6.0
- Microsoft® Outlook 2000/2002/2003
- Microsoft Outlook Express 5.5/6.0/7.0
- Microsoft Outlook 2000/2002/2003/2007
- Microsoft Windowsメール
- Eudora Pro 4.2-J、Eudora 4.3-J（ペイドモード）/5.0-J/5.1-J/6.0J/6.2J/7J（製品版）

本機の仕様

容量(ユーザー使用可能領域)
2 GB (約1.79 GB = 1,924,136,960 Byte)

メモリー容量の一部をデータ管理領域として使用しています。

周波数範囲
ST：75 Hz～20,000 Hz
STSP：75 Hz ～ 17,000 Hz
STLP：75 Hz～7,500 Hz
SP：75 Hz～15,000 Hz
LP：80 Hz～3,500 Hz

スピーカー
直径28 mm

入・出力端子
外部入力(ステレオミニジャック)
プラグインパワー対応
最小入力レベル 0.4 mV
ヘッドホン(ステレオミニジャック)
負荷インピーダンス、16 Ω～300 Ω
USB端子
High-Speed USB対応

再生スピード調節(DPC)
＋100 %～－50 % (MP3)

実用最大出力
300 mW

電源
DC3.0 V、単4形アルカリ乾電池 (付属) 2本

動作温度
5℃～ 35℃

最大外形寸法
約46 mm×115.5 mm×22 mm (幅／高さ／奥行き)(JEITA*4)

質量
約86 g (単4形アルカリ乾電池2本含む) (JEITA*1)

*1 電子産業技術協会(JEITA)の測定方法に基づいています。

付属品
6ページ参照

別売アクセサリー
USB ACアダプター AC-U50AD
アクティブスピーカー SRS-M50
エレクトレットコンデンサーマイクロホン
ECM-CS10/CZ10、ECM-DS70P、ECM-TL1
充電式ニッケル水素充電池単4形
NH-AAA-2BKA

本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

最大録音時間[*2*3]

最大録音時間は、全フォルダ合わせて表のとおりです。

STモード	STSPモード	STLPモード	SPモード	LPモード
22時間15分	33時間20分	89時間	89時間	534時間25分

[*2] 連続録音の場合は、途中電池交換が必要になります。詳しくは乾電池の持続時間をご確認ください。

[*3] 録音モードを混在して録音した場合、最大録音時間は任意に変化します。

電池の持続時間

乾電池の持続時間[*1]（ソニーアルカリ乾電池LR03（SG）を連続使用時）

	ST モード[*2]	STSP モード[*3]	STLP モード[*4]	SP モード[*5]	LP モード[*6]
録音時	約40時間	約40時間	約50時間	約50時間	約65時間
スピーカー再生時[*7]	約13時間	約13時間	約13時間	約13時間	約13時間
ヘッドホン再生時	約40時間	約40時間	約40時間	約40時間	約40時間

充電式電池の持続時間[*1]（ソニー充電式ニッケル水素電池NH-AAAを連続使用時）

	ST モード[*2]	STSP モード[*3]	STLP モード[*4]	SP モード[*5]	LP モード[*6]
録音時	約28時間	約28時間	約36時間	約36時間	約45時間
スピーカー再生時[*7]	約11時間	約11時間	約11時間	約11時間	約11時間
ヘッドホン再生時	約28時間	約28時間	約28時間	約28時間	約28時間

[*1] 電池持続時間は当社試験法によるものです。使用条件によって短くなる場合があります。

[*2] STモード：ステレオ高音質モード

[*3] STSPモード：ステレオ標準モード

[*4] STLPモード：ステレオ長時間モード

[*5] SPモード：モノラル標準モード

[*6] LPモード：モノラル長時間モード

[*7] 音声レベルを27に設定し、内蔵スピーカーで音楽を再生した場合。

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間はお買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この説明書をもう一度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときはサービスへ

ソニーの相談窓口(裏表紙)、お買い上げ店、または添付の「ソニーご相談窓口のご案内」にあるお近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社ではICレコーダーの補修用性能部品(製品の機能を維持するために必要な部品)を、製造打ち切り後6年間保有しています。この部品保有期間を修理可能な期間とさせていただきます。保有期間が経過したあとも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますので、お買い上げ店またはサービス窓口にご相談ください。

故障かな？と思ったら

修理を依頼される前に、もう一度下記項目をチェックしてみてください。それでも解決しない場合、ご不明な点は、裏表紙に記載のICレコーダー･カスタマーサポートページをご覧いただくか、ソニーの相談窓口（裏表紙）までお問い合わせください。
なお、保証書とアフターサービスについては、65ページをご参照願います。
修理に出すと、録音した内容が消えることがあります。ご了承ください。

こんなときは

症状	原因／処置
電源が切れない。	• 停止中にホールドスイッチを矢印の方向に動かす（12ページ）。
電源が入らない。	• 電源がオフになっている。 → ホールドスイッチを矢印と反対の方向に動かす（12ページ）。
液晶表示が消えない。 表示が2重に見える。	• 保護シートが付いていませんか。 → フィルムを剥がしてお使いください。
操作ボタンを押しても動作しない。	• 電池の⊕と⊖の向きが正しくない（10ページ）。 • 電池が消耗している（11ページ）。 • 電源がオフになっている。 → ホールドスイッチを矢印と反対の方向に動かす（12ページ）。
スピーカーから音が出ない。	• 音量が絞られている（18ページ）。 • イヤーレシーバーをつないでいる（27ページ）。
片方のチャンネルからしか音が出ない。	• 本機につないでいる機器がモノラルの場合、片方のチャンネルにしか音が出ません。その場合は、モノラルからステレオに変換する変換プラグ（付属）をお使いください。
イヤーレシーバーをつないでいても、スピーカーから音が出る。	• 再生中にイヤーレシーバーを差し込むとき、最後まで差し込まないとスピーカーからも音が聞こえてしまうことがあります。 → いったんイヤーレシーバーを抜いて、最後までしっかり差し込む。
録音、再生またはアクセスランプが点灯しない。	• メニューの「ランプ」が「切」に設定されている。 →「入」に切り換える（47ページ）。

症状	原因／処置
「FULL」と **録音** が点滅して、録音できない。	• メモリーがいっぱいになっている。 → 不要な用件を消去する(20、41ページ)。
「FULL」と用件番号(99)が点滅して、操作できない。	• 99件の用件が録音されているため、新たな録音や用件分割ができない。 → 不要な用件を消去する(20、41ページ)。
録音が途中で止まる。	• VORが作動している。VORを使用しないときは、メニューで「切」にする(25ページ)。
雑音が入る。	• 録音したとき、本機をこすってしまい、雑音が録音された。 • 録音中や再生中に本機を電灯線、蛍光灯、携帯電話などに近づけすぎると、ノイズが入ることがあります。 • 外部マイクで録音したとき、マイクのプラグが汚れていた。 → プラグをきれいにクリーニングする。 • イヤーレシーバーで聞いているとき、イヤーレシーバーのプラグが汚れている。 → プラグをきれいにクリーニングする。
録音レベルが小さい。	• マイク感度が「**L**(口述)」になっている。 → 「**H**(会議)」に切り換える(23ページ)。
録音レベルが不安定。(音楽などを録音したとき)	• 本機は会議などの録音の際、自動的に録音レベルを調整するよう設計されているため、音楽などの録音には適していません。
用件を分割できない。	• 99件を超えると、用件分割はできません。 • 頻繁に用件分割をすると、用件分割ができなくなることがあります。 • 保護設定が「入」になっていると用件分割できません。
他の機器から録音するとき、録音レベルが小さすぎたり大きすぎたりする。	• 他の機器のヘッドホン端子を使って本機と接続し、つないだ機器側で音量を調節してください。
再生スピードが速すぎたり遅すぎたりする。	• DPC (速度調節)入／切スイッチが「入」になっているため、調節した再生スピードで再生されている。 → DPC (速度調節)入／切スイッチを「切」にすると、通常の速度で再生されます。または、再生スピードを調節してください(33ページ)。
DPC速または遅ボタンを押しても速度が変わらない。	• DPC (速度調節)入／切スイッチを「入」にしてください。
時計表示が「--:--」になる。	• 時計を合わせていない(13ページ)。

症状	原因／処置
録音日時表示が「--年 --月 --日」または「--:--」になる。	• 時計を合わせていないときに録音した用件には、録音した日付は表示されません。
時計がリセットされる。	• 電池をはずした状態で約2分以上たつと時計がリセットされます。電池を交換するときは、新しい電池を用意してから交換してください。
「SET DATE」が表示され、アラーム再生が設定できない。	• 時計を合わせていない場合は設定できません。
「PRE SET」が表示され、アラーム再生が設定できない。	• すでに他の用件でアラーム設定されているのと同じ時刻を設定しようとすると、設定できません。
「BACK-D」が表示され、アラーム再生が設定できない。	• 現在時刻より前にアラーム設定はできません。
メニュー表示の項目が足りない。	• 再生中または録音中は、表示されないメニューがあります（45ページ）。
本機に表示される残り時間が、パソコン上での残量表示より短い。	• 本機ではシステム上必要な領域を差し引いて表示しているため、Digital Voice Editorでの残量表示と異なる場合があります。
電池の持続時間が短い。	• 64ページの乾電池の持続時間は、音量レベルを27で再生した場合の目安です。使用条件によって短くなる場合があります。
電池を入れたまま長い期間使用しないあとで、使おうとすると電池がなくなっている。	• 使用しない場合でも、わずかですが電池を消耗します。この場合の電池寿命は、温度などの環境によっても異なりますが、約2か月が目安です。長い間ご使用にならない場合は、こまめに電源を切る（12ページ）か、電池をはずしておくことをおすすめします。
充電中に電池マークのアニメーションが表示されない。	• 充電式電池が入っていないか、充電式電池以外の電池（アルカリ電池、マンガン電池など）が入っている。 • 充電式電池を入れる向きが正しくない。 • USBケーブルが正しく接続されていない。 • メニューの「充電」が「切」になっている。パソコンに接続して充電する場合は、設定を「入」にする（47ページ）。 • 内蔵スピーカーで再生している。内蔵スピーカーで再生中は充電できません。 • パソコンが休止状態では充電できません。

症状	原因／処置
充電の途中で電池マークのアニメーション表示が消えてしまう。	• ニッケル水素以外の充電式電池または充電式電池以外の電池（アルカリ電池、マンガン電池など）が入っている。 • 劣化した充電式電池を使用している。 • 内蔵スピーカーで再生している。内蔵スピーカーで再生中は充電できません。
充電式電池の持続時間が短い。	• 5℃以下の環境で使用している。電池の特性によるもので故障ではありません。 • しばらく使用していなかった。何回か充電、放電（本機に入れて使用する）を繰り返す。 • 充電式電池の交換が必要です。新しい充電式電池と交換する。 • 短時間で電池マークが点灯しますがフル充電になっていません。電池残量が無い状態からフル充電までは約4時間かかります。
充電中に「充電」マークと電池マークが点滅する。	• 本機の充電可能な温度範囲外になっている。周囲温度を動作温度（5℃～35℃）にしてください。
変更したメニュー設定が反映されていない。	• 設定変更直後に電池が抜かれた場合、本機のメニュー設定が反映されないことがあります。
パソコンと接続できない。	• Digital Voice Editorのヘルプをご覧ください。 • 別売のパソコン接続キットICKIT-W1/W2/W5/W7/W9は本機とは接続できません。
パソコンで充電できない。	• 起動していないパソコンに接続しても充電できません。 • パソコンが起動していても、休止状態（スタンバイ、スリープ）のときは充電できません。 • メニューの「充電」が「切」になっている。 → パソコンに接続して充電する場合は、設定を「入」にする。 • パソコンから本機をはずし、再度接続してください。 • 本機が対応しているシステム構成（61ページ）以外では、動作保証はいたしかねます。
起動に時間がかかる。	• 用件数が多いと、起動するのに時間がかかることがありますが、故障ではありません。停止画面になるまでお待ちください。
正常に動作しない。	• 電池を取り出して、もう一度入れ直す。

症状	原因／処置
パソコンで認識しない。 パソコンからフォルダ、ファイルが転送できない。	• パソコンから本機をはずし、再度接続してください。 • USBハブ、またはUSB延長ケーブルをご使用の場合は、付属のUSBケーブルを使って接続してください。 • 本機が対応しているシステム構成（61ページ）以外では、動作保証はいたしかねます。 • お使いのパソコンに複数のUSBポートがある場合は、別のUSBポートに接続してください。
消去できない。	• 保護設定されていると消去できません。 → 保護設定を解除してください（48ページ）。

こんなときは（付属のDigital Voice Editor）

Digital Voice Editorのヘルプもあわせてご覧ください。

症状	原因／処置
インストールできない。	• ハードディスクの空き容量が少ない。 → 容量を確認してください。 • Winodows® 95/Windows® 98/Windows® 98 Second Edition/Windows® Millennium Edition/Windows® NTにインストールしようとした。 → 対応しているOSにインストールしてください。（Winodows® 95/Windows® 98/Windows® 98 Second Edition/Windows® Millennium Edition/Windows® NT/Mac OSには対応していません。） • Windows Vista® Ultimate Service Pack1以降/Windows Vista® Business Service Pack1以降/Windows Vista® Home Premium Service Pack1以降/Windows Vista® Home Basic Service Pack1以降/Windows® XP Media Center Edition 2005 Service Pack3以降Windows® XP Media Center Edition 2004 Service Pack3以降/Windows® XP Professional Service Pack3以降/Windows® XP Home Edition Service Pack3以降上で「制限付きアカウント」に所属するユーザー名でログオンしている。 → 「コンピューターの管理者」に所属するユーザー名でログオンしてください。 • Windows® 2000 Professional上で全角のユーザー名でログオンしている。 → 「Administrator」でログオンしてください。 • 日本語以外のOSにインストールしようとした。 → 日本語のOSにインストールしてください。
本機と接続できない。	• ソフトウェアのインストール、接続ケーブルの接続などを正しく行ったか確認してください。 – 外付けUSBハブをご使用の場合には、直接パソコンに接続してください。 – 本機側の接続ケーブルを抜き差ししてください。 – 他のUSBポートで接続してみてください。 • システムサスペンド／システムハイバネーションモードに移行している。 → システムサスペンド／システムハイバネーションモードに移行しないでください。

症状	原因／処置
パソコンからの再生音量が小さい、パソコンから音が出ない。	• サウンドポートが付いていない。 • パソコンにスピーカーが内蔵または接続されていない。 • ミュートが解除されていない。 • パソコン側で音量を上げてみてください。（詳しくはお使いのパソコンの取扱説明書をご覧ください。） • WAVファイルの場合は、サウンドレコーダー（Windows®に搭載）で音量を上げて保存しなおすこともできます。
保存した用件ファイルが再生、編集できない。	• 対応していないファイル形式の用件は再生できません。また、ファイル形式によっては一部の編集機能がお使いになれません。詳しくは、ヘルプをご覧ください。
カウンターやスライダーの動きがおかしい、 雑音が入る。	• 分割／結合、上書き録音、追加録音などを行った用件をパソコン上で再生したときに発生する場合があります。 → いったんハードディスクに保存してから*再度本機に戻すと、データが最適化され、正常な再生に戻ります。（*本機の形式に合ったファイル形式で保存してください。）
用件数が多くなると動作が遅くなる。	• 録音時間の長さに関係なく、本機内の用件の総数が多いと、処理に時間がかかることがあります。
用件の保存・追加・削除中に画面が動かなくなる。	• 録音時間の長い用件の場合、コピーまたは削除に時間がかかります。 → コピーまたは削除が終了するまでお待ちください。通常の操作ができるようになります。
本ソフトウェアを起動したときフリーズ（ハングアップ）してしまう。	• 本機と通信を行っている間は絶対にケーブルを抜かないでください。パソコンの動作が不安定になったり、本機内のデータが壊れる恐れがあります。 • 他にインストールされているドライバおよびアプリケーションソフトとのコンフリクトの可能性があります。 • 本ソフトウェアをインストールしたあとに、Memory Stick Voice Editor 1.x/2.xおよびDigital Voice Editor Ver. 2.xをインストールしないでください。本ソフトウェアが正常に動作しなくなります。

エラー表示一覧

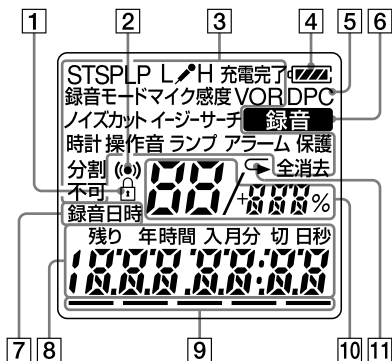
エラー表示	原因
LO BATT	• 電池が消耗しています。新しい単4形乾電池と取り換えてください。
FULL（録音 が同時に点滅）	• 録音できるメモリー容量がなくなりました。いくつかの用件を消去してからやり直してください。
FULL（用件番号が同時に点滅）	• 用件の合計が最大用件数（99件）を超えたため、新規の用件を作成できません。いくつかの用件を消去してからやり直してください。
SET DATE	• 時計合わせをしていないと、アラームは設定できません。
NO DATA	• 1件も用件が録音されていません。用件保護、消去とアラーム再生の設定などの操作ができません。
PRE SET	• すでにアラーム設定をした日時または時刻にアラームを設定しようとしています。日時または時刻などもう一度確認して、設定し直してください。
BACK-D	• 現在日時よりも前の日時でアラームを設定しようとしています。年月日などもう一度確認して、設定し直してください。
（「保護」が同時に点滅）	• 選んだ用件が「保護」に設定されています。消去などができません。メニューで「保護」の設定を「切」にすると操作できるようになります。
DPC OFF	• DPC（速度調節）入／切スイッチが「切」になっています。
「分割」「不可」	• 用件の合計が最大件数（99件）を超えたため、分割できません。いくつかの用件を消去してからやり直してください。
ERR ACCESS ERR 01 ～ 06	• 何らかの原因でシステムエラーが発生しています。一度電池をはずし、再度入れ直してください。それでも動作しない場合は、ソニーの相談窓口（裏表紙）までご連絡ください。

システム上の制約

ICレコーダーの録音方式では、いくつかのシステム上の制約があり、次のような症状が出る場合があります。これらは故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。

症状	原因／処置
最大録音時間まで録音できない。	• STモード、STSPモード、STLPモード、SPモード、LPモードを混ぜて録音すると、最大録音時間はSHQモードとLPモードの最大録音時間の間になります。 • 上記の理由により、実際に録音した時間（カウンター表示）の合計と、「録音可能時間」を合計した時間が、最大録音時間より少なくなる場合があります。
A-Bリピート設定で、設定位置がずれてしまう。	• ファイルによっては、設定位置がずれてしまうことがあります。

表示窓

停止／録音時

1 保護マーク
用件が保護設定されているとき表示されます。

2 アラーム表示
用件にアラームが設定されているとき表示されます。

3 メニュー表示
選んだメニュー項目が表示されます。

4 電池マーク
乾電池を使用しているときは電池残量が表示されます。
充電式電池を充電中にはアニメーション表示になります。

5 DPC表示
DPC入／切スイッチが「入」に設定されているときに表示されます。

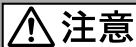
6 録音表示
録音中に表示されます。

7 「録音日時」表示

8 カウンター、残り時間、録音日付、現在時刻表示、メニューの現在の設定（入／切）など。

9 メモリー残量表示

10 位置表示（現在の用件、総用件）、DPCの設定数値

11 リピート表示

⚠注意　下記の注意事項を守らないとけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

内部を開けない

感電の原因となることがあります。内部の点検や修理はお買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。

大音量で長時間つづけて聞きすぎない

耳を刺激するような大きな音量で長時間つづけて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。とくにイヤーレシーバーで聞くときにご注意ください。呼びかけられて返事ができるくらいの音量で聞きましょう。

はじめからボリュームを上げすぎない

突然大きな音がでて耳を痛めることがあります。

- 本製品の不具合により、録音や再生ができなかった場合、および録音内容が破損または消去された場合など、いかなる場合においても録音内容の補償についてはご容赦ください。
  また、いかなる場合においても、当社にて録音内容の修復、復元、複製などはいたしません。
- 本製品を使用したことによって生じた金銭上の損害、逸失利益および第三者からのいかなる請求につきましても、当社は一切その責任を負いかねます。
- 録り直しのきかない録音の場合は、必ず事前にためし録りをしてください。
- お客様が録音したものは個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。

バックアップのおすすめ

万一の誤消去や、ICレコーダーの故障などによるデータの消滅や破損にそなえ、大切な録音内容は、必ず予備として、コンピューターなどに保存してください。

電池についての安全上のご注意

液漏れ・破裂・発熱・発火・誤飲による大けがや失明を避けるため、以下の注意事項を必ずお守りください。

電池の種類については、電池本体上の表示をご確認ください。
種類によっては該当しない注意事項もあります。

充電式電池
ニカド(Ni-Cd)
ニッケル水素(Ni-MH)
リチウムイオン(Li-ion)

乾電池
アルカリ、マンガン

ボタン型電池
リチウムなど

⚠危険 **充電式電池、乾電池、ボタン型電池が液漏れしたとき**

- 充電式電池、乾電池の液が漏れたときは素手で液をさわらない。
- 液が本体内部に残ることがあるため、ソニーの相談窓口(裏表紙)またはソニーサービス窓口に相談する。
- 液が目に入ったときは、失明の原因になることがあるため、目をこすらず、すぐに水道水などのきれいな水で充分洗い、ただちに医師に相談する。
- 液が身体や衣服についたときは、やけどやけがの原因になるため、すぐにきれいな水で洗い流し、皮膚に炎症やけがの症状があるときには医師に相談する。

⚠危険 **充電式電池について**

- 機器の表示に合わせて＋と－を正しく入れる。
- 取扱説明書に記載された充電方法以外で充電しない。
- バッテリーキャリングケースが付属されている場合は、必ずキャリングケースに入れて携帯、保管する。
- 火の中に入れない。
- ショートさせたり、分解、加熱しない。
- コイン、キー、ネックレスなどの金属類と一緒に携帯、保管しない。
- 火のそばや直射日光のあたるところ、炎天下の車中など、高温の場所で使用、保管、放置しない。
- 水などで濡らさない。風呂場などの湿気の多いところで使わない。
- 外装のビニールチューブをはがしたり、傷つけない。
- 指定された種類の充電式電池以外は使用しない。
- 長時間使用しないときや、長時間USB ACアダプターで使用するときは取りはずす。
- 液漏れした電池は使わない。
- 種類の違う電池を混ぜて使わない。

日本国内での充電式電池の廃棄について

Ni-MH

ニッケル水素充電池は、リサイクルできます。不要になったニッケル水素充電池は、金属部にセロハンテープなどの絶縁テープを貼って充電式電池リサイクル協力店へお持ちください。

充電式電池の回収・リサイクルおよびリサイクル協力店については有限責任中間法人JBRCホームページ http://www.jbrc.net/hp/contents/index.html を参照してください。

⚠警告 乾電池、ボタン型電池について

- 小さい電池は飲み込む恐れがあるので、乳幼児の手の届かないところに保管する。**電池を飲み込んだときは、窒息や胃などへの障害の原因になるので、ただちに医師に相談してください。**
- 機器の表示に合わせて＋と－を正しく入れる。
- 充電しない。
- 火の中に入れない。
- ショートさせたり、分解したり、加熱したりしない。
- コイン、キー、ネックレスなどの金属類と一緒に携帯、保管しない。
- 使い切った電池は取りはずす。長時間使用しないときや、USB ACアダプターで使用するときも取りはずす。
- 新しい電池と使用した電池、種類の異なる電池を混ぜて使わない。
- 液漏れした電池は使わない。

⚠注意 乾電池、ボタン型電池について

- 火のそばや直射日光の当たるところ、炎天下の車中など、高温の場所で使用、保管、放置しない。
- 水などで濡らさない。風呂場などの湿気の多いところで使わない。
- 外装のビニールチューブをはがしたり、傷つけない。
- 指定された種類の電池以外は使用しない。

お願い

使用済み充電式電池は貴重な資源です。端子(金属部分)にテープを貼るなどの処理をして、充電式電池リサイクル協力店にご持参ください。

索引

数字、記号、アルファベット順

あ行

か行

さ行

著作権と商標について

著作権について

- 権利者の許諾を得ることなく、このマニュアルの全部または一部を複製、転用、送信等を行うことは、著作権法上禁止されております。
- あなたが録音したものは、個人として楽しむなどの他は、著作権法上権利者に無断で使用できません。

商標について

- Microsoft、Windows、Windows Vista、Windows Mediaは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- 本機はFraunhofer IISおよびThomsonのMPEG Layer-3オーディオコーディング技術と特許に基づく許諾製品です。

その他、本書で登場するシステム名、製品名、サービス名は、一般に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。なお、本文中では®、™マークは明記していません。

お問い合わせ窓口のご案内

本機についてご不明な点や技術的なご質問、故障と思われるときのご相談については、下記のお問い合わせ先をご利用ください。

- **ホームページで調べるには→ICレコーダー・カスタマーサポートへ**
  (http://www.sony.co.jp/ic-rec-support)
  ICレコーダーに関する最新サポート情報や、よくあるお問い合わせとその回答をご案内するホームページです。
- **電話・FAXでのお問い合わせは→ソニーの相談窓口へ(下記電話・FAX番号)**
  - 本機の商品カテゴリーは[ICレコーダー]です。
  - お問い合わせの際は、次のことをお知らせください。

    ◆セット本体に関するご質問時：
    - 型名：ICD-AX80
    - シリアルナンバー：電池ボックス内
    - ご相談内容：できるだけ詳しく
    - お買い上げ年月日

    ◆付属のソフトウェアに関連するご質問時：
    質問の内容によっては、お客さまのシステム環境について質問させていただく場合があります。上記内容に加えて、システム環境を事前に分かる範囲でご確認いただき、お知らせください。

よくあるお問い合わせ、窓口受付時間などはホームページをご活用ください。　**http://www.sony.co.jp/support**

使い方相談窓口	フリーダイヤル・・・・・・・・・・・・・・	**0120-333-020**
	携帯電話・PHS・一部のIP電話・	**0466-31-2511**
修理相談窓口	フリーダイヤル・・・・・・・・・・・・・・	**0120-222-330**
	携帯電話・PHS・一部のIP電話・	**0466-31-2531**

※取扱説明書・リモコン等の購入相談はこちらへお問い合わせください。

左記番号へ接続後、最初のガイダンスが流れている間に「303」+「#」　を押してください。直接、担当窓口へおつなぎします。

FAX（共通） 0120-333-389

ソニー株式会社　〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

* 4 1 5 8 5 4 5 0 2 * (1)